

講義コード	519401501	
講義名	幼稚園実習Ⅱ	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
専任教員	山本 詩織	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

### 授業の概要

この実習では、参加実習・部分実習・責任実習を中心に行う。

#### （参加実習）

見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていき段階。担当の保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や、保育者の役割について体験を通して学ぶ。

#### （部分実習）

保育の一部分を実習生が担当する。最初は「紙芝居」や「呼名」など点的な保育から始まり、徐々に長くなる。事前に保育の指導案を作成してから実行に移す必要がある。「計画」→「実践」→「反省」→「担当保育者による講評」→「再考察」→「次の保育へ」という流れで行う。

#### （責任実習）

保育を丸一日実習生が担当する。保育の指導案は登園から降園までを通した「日案」と、その日の主活動の案である「細案」を作成する。

原則として、部分実習・責任実習を実施しない者は単位を認めないので注意すること。

### 授業の到達目標及びテーマ

幼稚園実習の意義は、幼稚園の教育・施設設備の特質やあり方、さらに保育内容について深く研究し、把握することにある。

また、幼児教育に関する理論・知識・技能を実践にうつす機会であり、子どもと生活を共にすることによって、子どもへの愛情、教育的熱意、教育の喜び、難しさなどを体得する重要な経験となるものである。

到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。

幼児教育科のディプロマ・ポリシー「9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている」を達成するための科目である。

※ 特に、幼稚園実習Ⅱは幼児教育に関する学びの集大成としての意味があるため、幼児教育の現場においてしっかりと実践性を発揮することが求められるので、その覚悟を持って履修すること。

## 授業計画表

### 授業時間外の学修

以下の4点を求める。

- (1) 実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておくこと。
- (2) 実習で求められる保育教材の研究を日々行い、実習に対する心構えを養っておくこと。
- (3) 責任実習に備えて、指導案（日案・細案）の書き方およびそれに伴う教材研究の方法を復習しておくこと。
- (4) 日頃から幼児教育に関するニュース等に関心を寄せておくこと。

### 実務経験の有無

実践的教育から構成されている 例：教育実習・インターンシップ等

### ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	◎

### ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
実習態度	保育者としての適性を感じられ、現場での実践に必要なとされる協調性と協働性を十分に発揮しながら積極的な態度で実習が出来ている	保育者にふさわしい人間性を持ち、積極的な態度で実習が出来ている	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から軽度な課題がある	勤務態度や積極性、協調性、協働性等の保育者に必要とされる資質において、その実習態度から明らかに支援を必要とする判断できる
組織理解	実習施設に関して、事前学習の知識と実習での体験を結び付け、保育者として総合的に理解することが出来ている	実習施設に関する総合的な理解が出来ている	実習施設に関して理解しつつあるが、体験からの考察が不十分である	実習施設に関する理解が不十分であり、支援をしながら十分な理解を目指す必要があると判断できる
利用者理解とかかわり	事前学習の知識をもとに、積極的な参加を通じてかかわりや記録による豊かな考察により、利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かかわりや記録から利用者の実態や課題を考察することが出来ている	参加を通じて、かかわりや記録から利用者の実態や課題を考察しようとする態度はあるが、不十分である	利用者の実態や課題を考察する上で、支援を必要とする課題があると判断できる
保	実践を行う者として保育内容に関する十分な知識	実践を行う者として、保育	保育内容の理解、教	保育内容の理解、教材の

育 技 術	をもち、その上で子ども や施設の実情に応じた計 画立案、教材の準備が出 来ている	内容の理解や 教材の事前準 備、計画立案 が出来ている	材の事前準備、計画 立案のいずれかにお いて軽度な課題があ る	事前準備、計画立案のい ずれかにおいて明らかに 支援を必要とすると判断 できる
-------------	---	--------------------------------------	--	--

## 成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度		
レポート	50%	課題レポートを課す
その他	50%	実習先からの評価と実習日誌記述から評価する

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果につ いて	課題（レポート等）につ いて	模擬授業、プレゼン、発言等につ いて
	その都度解説、講評する	

## ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである
--------------------------------

## アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動 におけるAL	授業時間外にお けるAL
<p>グループワークのディスカッションやディベート （議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用</p>	<p>実験観察・実習</p>	<p>授業後レポート</p>

## 参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。  
内閣府・厚労省・文科省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル  
館、2015年。

**SDGsとの関連**

4. 質の高い教育をみんなに

**特記事項等**

1) 実務経験のある教員  
該当あり。

**研究室（訪問先等）**

花田：231研究室  
山本：222研究室  
井上：229研究室  
横井：225研究室  
直接研究室を訪ねてください

**成績評価法**

実習園の評価や指導案の内容、事後レポート等から総合的に評価する。